

# トータルマーケット

## 17年の動き

本誌調査による2017年の酒類食品トータルマーケットは、総生産額で23兆9,363億円（前年比1.0%増）だった。前年実績を上回るのは6年連続。人口減・高齢化が加速しているが、人間生活に欠かせない産業だけに、景気にも比較的左右されにくく安定した推移が続いている。物量ベースの需要は横ばいながら、製品の高付加価値化で単価アップが進んだ業種や品目も出てきている。

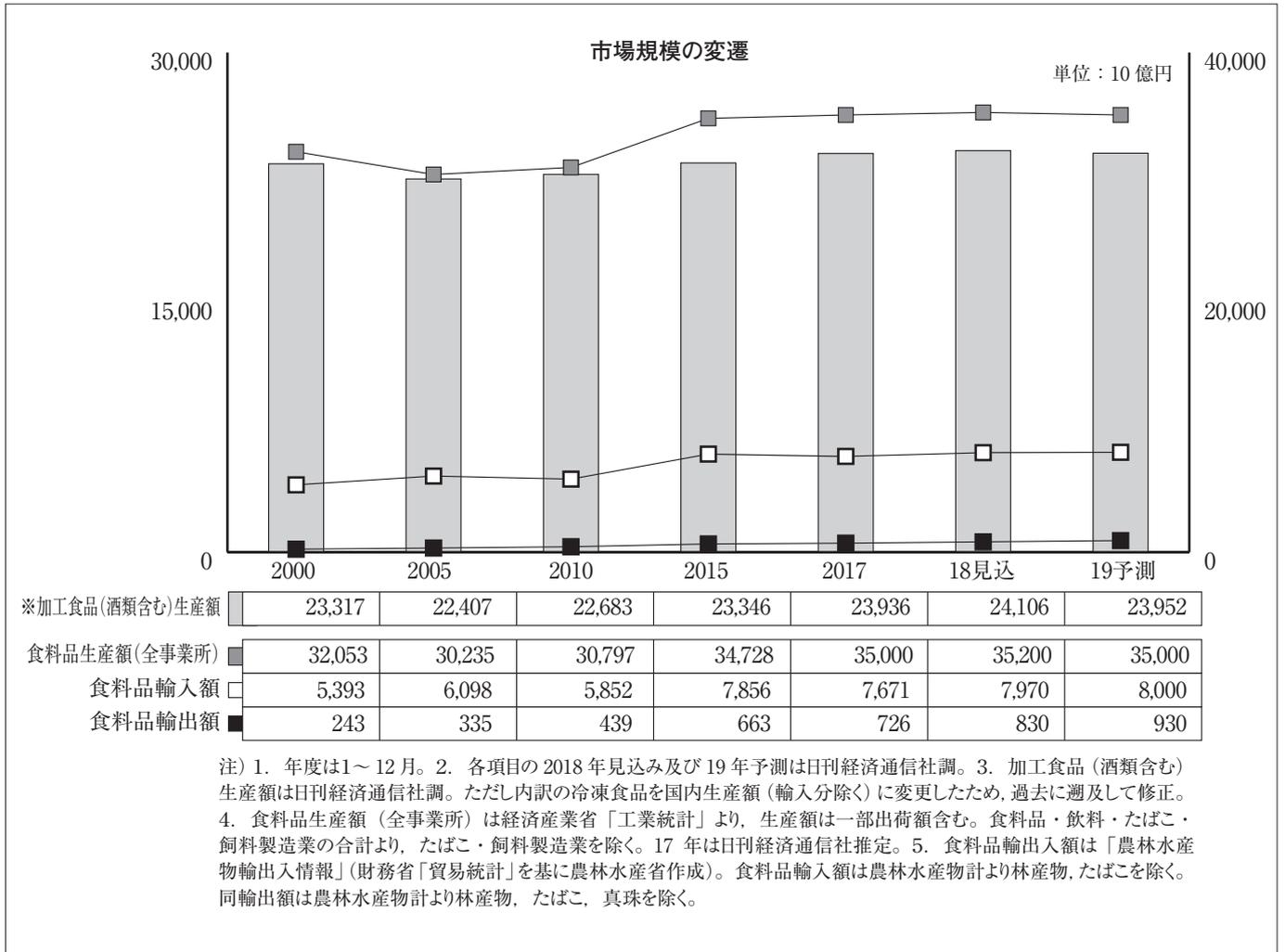
全17業種のうち、前年実績を上回ったのは酒類、牛乳・乳製品、清涼飲料、油脂、調味料、食肉・食肉加工品、小麦粉・粉2次加工品、菓子類、砂糖・糖化製品、冷凍食品、レトルト食品、健康食品の12業種。簡便志向・健康志向の高まりや個食化なども背景に、冷凍食品、レトルト食品、健康食品の伸び率が高い。

業種別の動向をみると、酒類ではビール類が下げ止まらず。改正酒税法の影響に加え、度重なる台風直撃や週末の降雨もマイナス要因となった。清酒は微減が続くなか、吟醸酒や純米酒などへのシフトが進む。焼酎は甲類、乙類とも微減。厳しい環境ながら、商品によっては明

い兆しもある。国産洋酒はRTDとウイスキーが順調。前者は商品バリエーションの拡充、後者は品薄ながら需要の拡大が続く。ワインも依然としてプラス基調にある。

牛乳・乳製品では、成長軌道にあった発酵乳の勢いがやや鈍ったものの、アイスクリームやチーズは過去最高を更新している。缶詰は若干マイナス。水産を中心に原料価格が高騰したことから、主要各社は値上げに動いた。清涼飲料はさらに増勢。ボリュームの大きい品目では炭酸飲料、国産ミネラルウォーター、緑茶飲料などが伸びた。コーヒー飲料は微減も、中容量PET商材のヒットが話題を集めた。嗜好飲料はほぼ横ばい。レギュラーコーヒーは家庭用がさらに拡大し、業務用は高レベルの実績を維持した。

油脂はプラス。植物油ではオリーブオイル、こめ油、ごま油など高付加価値品への支持が定着している。調味料は、しょうゆ、みそなど基礎調味料は業務用ルートを含めて堅調。健康志向を背景にドレッシング類などが伸びた。食肉加工品、レトルト食品、冷凍食品は順調な動き。小麦粉・粉2次加工品は、パン類、めん類など主食系のカテゴリーが根強い需要に支えられている。菓子類では、チョコレートがけん引。その他農産加工品では、でんぷん、納豆、無菌包装米飯などが数字を伸ばした。



## 18年の動き

本誌調査による2018年の酒類食品トータルマーケットは、24兆1,061億円（0.7%増）と7年連続のプラス成長を予想した。引き続き安定した需要に支えられているが、本年は記録的な自然災害が相次ぎ、想定を超えた猛暑にも見舞われ、いずれも消費者心理に様々な形で影響を及ぼした。飲食店や百貨店の客数が減った一方、防災意識の高まりから保存性のある食品などは需要の押し上げ要因となった。

全17業種のうち、缶瓶詰、清涼飲料、小麦粉・粉2次加工品、菓子類、冷凍食品、レトルト食品、健康食品、その他農産加工品が前年クリアを見込む。

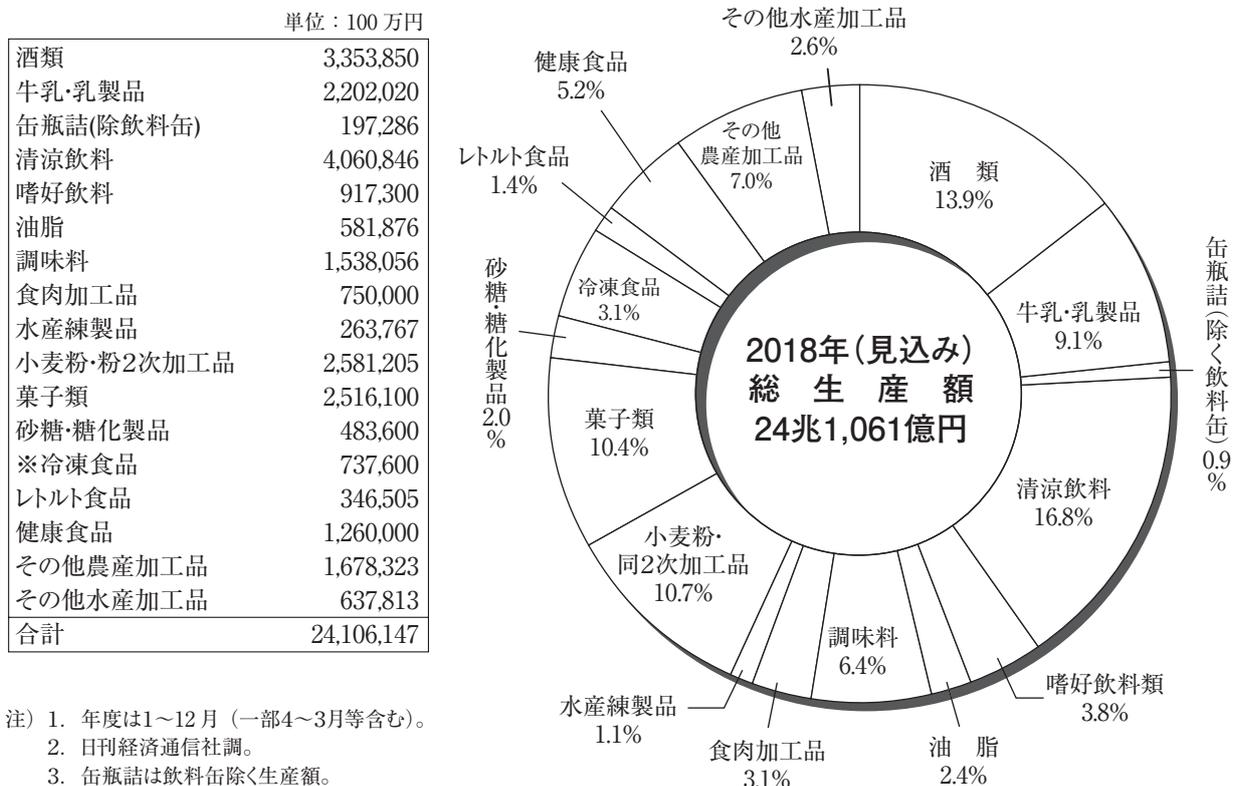
業種別の動向をみると、酒類のうちビール類は若干マイナス。今春に実施された一部業務用商品の値上げも影響しビールが数字を落とした一方、新ジャンルはプラスで推移している。清酒は上期で7%減と厳しい状況。最需要期の秋冬を含まないとはいえ、プラス転換は難しい情勢。焼酎も甲類、乙類とも減少。下期は一部大手メーカーが大型新商品を投入するなど、巻き返しを図る。国産洋酒は順調。RTDが続伸し、ウイスキーもハイボール人気に加えNB以外のクラフトウイスキーも存在感を増している。ワインは実需が鈍りつつあるもプラス予想。

牛乳・乳製品は、発酵乳、チーズ、アイスクリームが

引き続き堅調。缶瓶詰は、家飲みや総菜需要の高まりで底堅い動きだが、原料事情は水産を中心に依然として厳しい。清涼飲料は上期を2%増で折り返し。備蓄需要が高まったミネラルウォーター、大型商品の投入が相次いだ炭酸飲料、各社からPETボトルコーヒーが出そろったコーヒー飲料がけん引する。嗜好飲料は、高水準の消費量は維持しているものの、再び成長軌道に戻せるかが注目材料。

植物油は、市場でごま油やオリーブオイルが堅調な動き。こめ油やアマニ油なども好調に推移。調味料では、しょうゆ、みそなどの動きが鈍い一方、マヨネーズ・ドレッシング類は中・外食提案で続伸。食肉加工品は、主力のソーセージが活況を呈している。冷凍食品は、昨年ヒットした新商品の反動が出たものの、複数のメーカーが主力品の増産体制を整えるなど、今後も拡大路線が見込まれる。小麦粉・粉2次加工品は、即席めん、生めんなど堅調。プレミックスは業務用が人手不足対策をキーワードに伸びている。菓子は、カテゴリー間で明暗が分かれており前年並み。その他農産加工品は、17年同様に納豆、無菌包装米飯などの成長を見込む。

2018年(見込み)の業種別シェア



- 注) 1. 年度は1～12月（一部4～3月等含む）。  
 2. 日刊経済通信社調。  
 3. 缶瓶詰は飲料缶除く生産額。  
 4. 冷凍食品は国内生産額（輸入分除く）に変更。